

1号機 PCV内部環境調査について

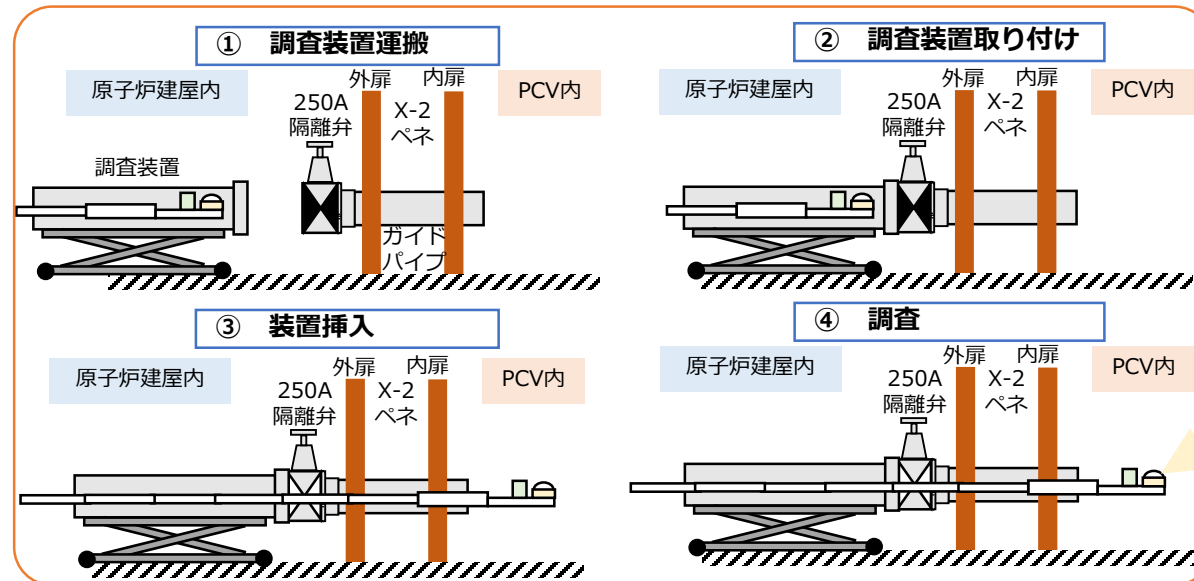
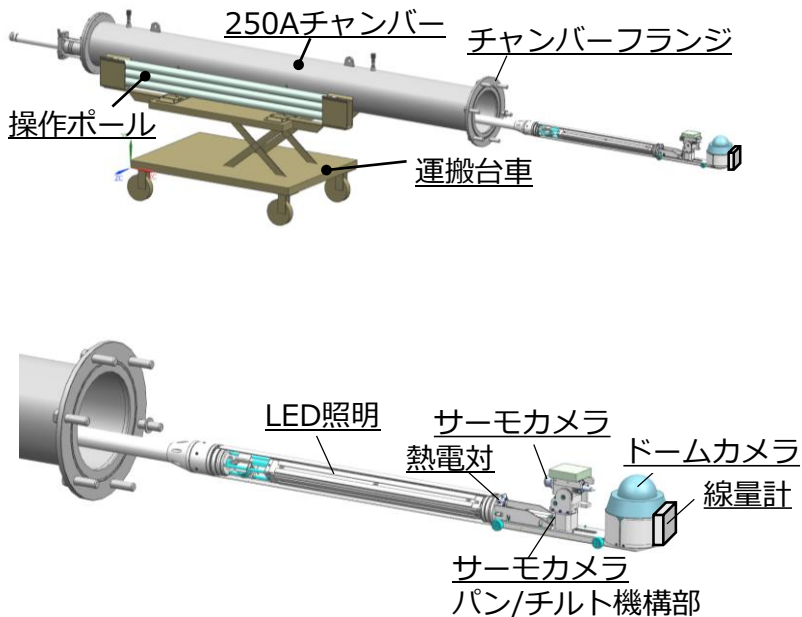
2024年10月31日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

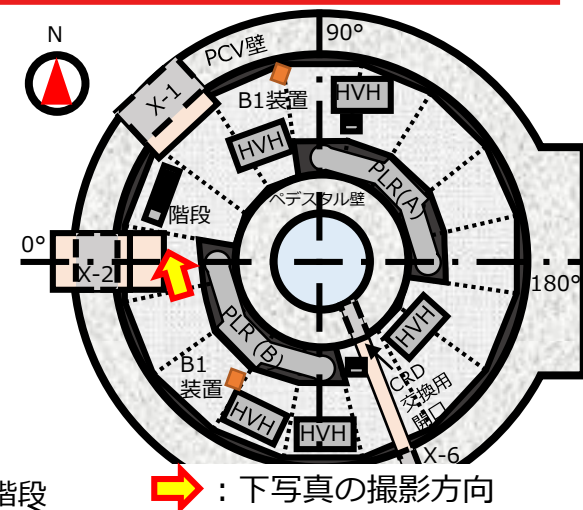
1. 1号機PCV内部環境調査の概要

- 1号機はPCV水位低下作業により、**前回の調査時よりも、D/Wの水位が低下している**
- それに伴い、堆積物が部分的に気中露出している可能性があり、**PCV内の空間線量率や、靄（もや）の量が変化している可能性がある**
- 空間線量率や靄の情報は、今後の**調査装置の設計(照明・カメラ等)やM/U・トレーニングの環境設定に影響**するため、現状のPCV内部の環境について改めて調査を実施する
- 調査は**X-2ペネ周辺で実施し、線量率、温度、映像情報を取得予定**
- 一般的に靄は温度変化の影響を受けるため、**夏季(9月)、冬季(2月)の測定を計画**



2. PCV内部環境調査結果（夏季）“霽の状態の比較”

- X-2ペネ周辺の霽の状態について、今回撮影したドームカメラの映像と、PCV水位低下前に撮影した過去の調査映像を比較
- 多少霽の量が減ったように見えるものの、カメラや照明の違いを考慮すると、**著しい変化は生じていないものと推定**
- 今後、冬季の調査結果を踏まえて、詳細な考察を進めていく



D/W2階階段



PCVアクセスルート構築作業時(2021年10月15日)
PCV水位：約T.P.6500

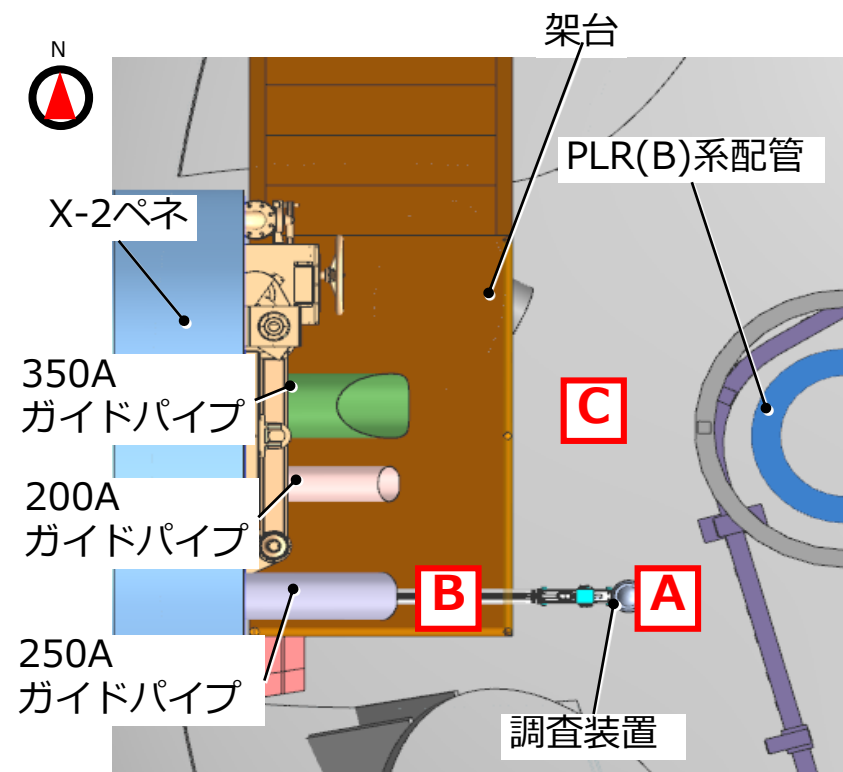
D/W2階階段



PCV内部環境調査 1日目(2024年9月30日)
PCV水位：約T.P.5000

3. PCV内部環境調査結果（夏季）“PCV内空間線量率の比較”

- 今回計測したX-2ペネ周辺の空間線量率と、過去の内部調査で計測した結果を比較
- X-2ペネ前の空間線量率については、過去の測定結果と著しい変化は無いものの、若干高い指示を示している点について、PCV水位低下による可能性についても検討していく
- なお、PCV外の空間線量率については、PCV水位低下前後で変化無し
- 空間線量率については、夏季・冬季で違いが無いと考えられるが、データ拡充のために冬季においても計測を計画



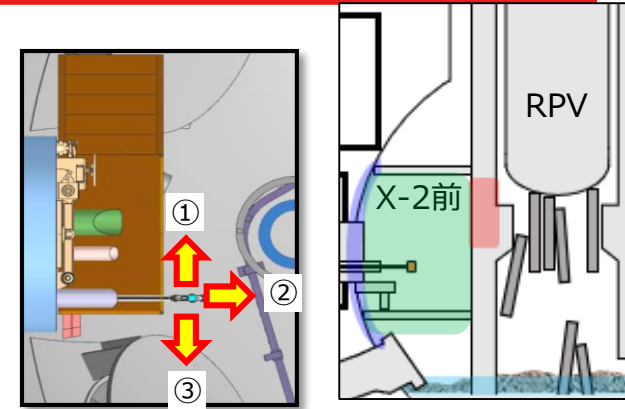
測定日	指示値 (約Gy/h)	計測 箇所	PCV水位 (約T.P.)
2024.9.30~10.1 (環境調査(今回調査))	3.3	A	5000
	3.1	B	
2024.3.14 (気中部調査(ドローン調査))	2.5	B	6600
2023.3.28 (詳細調査(水中ROV調査))	1.9	C	6200

参考：PCV底部の高さはT.P.4744

※ 環境調査における計器誤差：測定値の±10%
(IECの規格に準拠して校正)

4. PCV内部環境調査結果（夏季）“PCV内部の温度分布”

- X-2ペネ周辺の温度について、サーモカメラによる温度分布計測を実施
- 温度分布については、**比較的PCV壁側の温度が低いことを確認**。これは、PCV壁が外気の影響を受けやすいためと推定
- また、**ペDESTAL壁面の温度が若干高いことを確認**。これは、ペDESTAL内に熱源となる燃料デブリが比較的多く存在するためと推定
- いずれの箇所もPCV内温度計の指示(約30℃)と同等且つサーモ画像においても約28~33℃の範囲内で分布し、特異な箇所は見られなかった
- 冬季になると、よりPCV壁の温度が低下し、霧の発生源(冷媒)となる可能性があるため、冬季の調査結果を踏まえて詳細な考察を進めていく

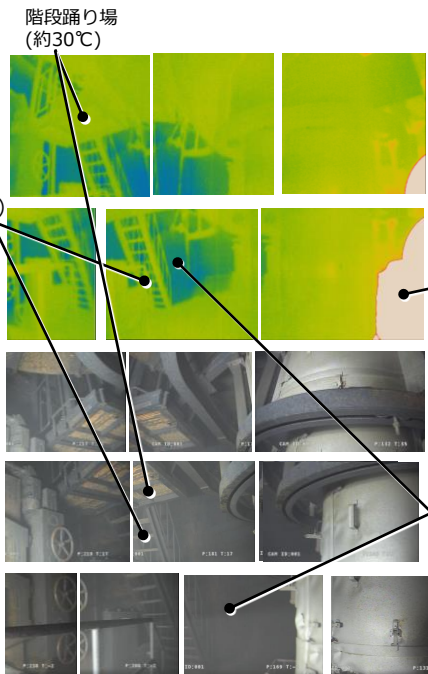


➡: 下写真の撮影方向 温度分布イメージ(断面図)

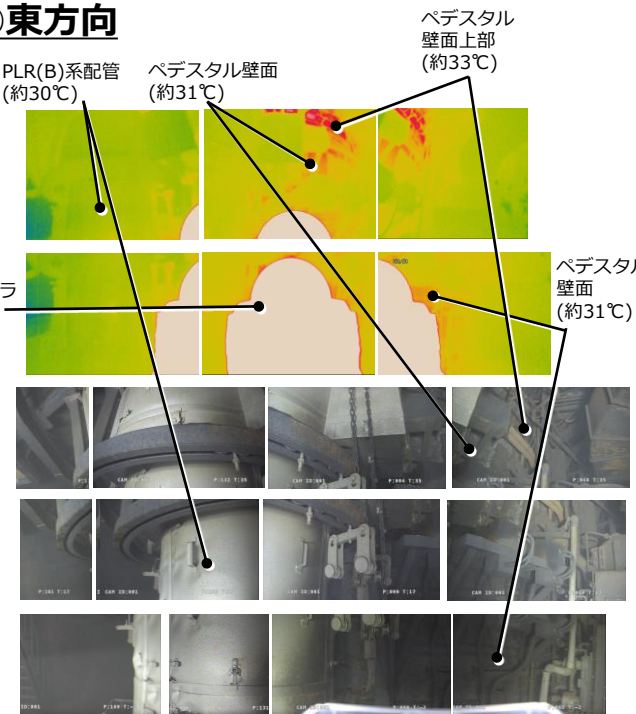
①北方向

サーモカメラ映像

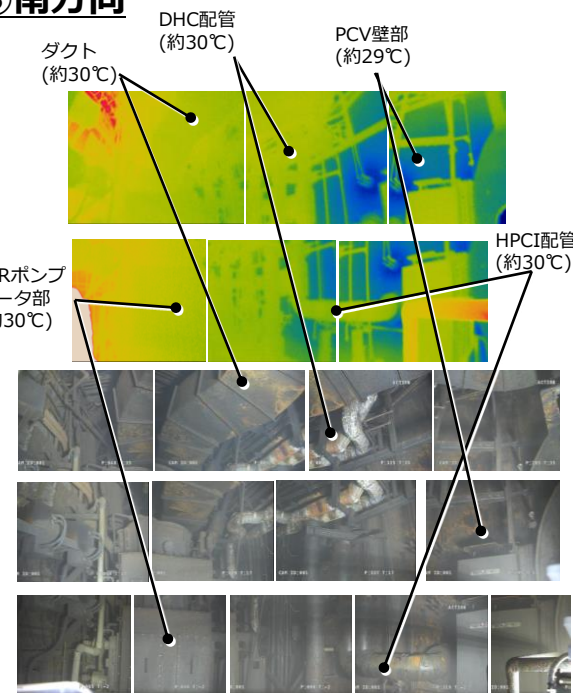
ドームカメラ映像



②東方向



③南方向



※ サーモカメラの誤差：±2℃、ラップ撮影した画像を繋ぎ合わせているため、複数の写真に同じ構造物が表示されている。

5. 今後の調査計画について

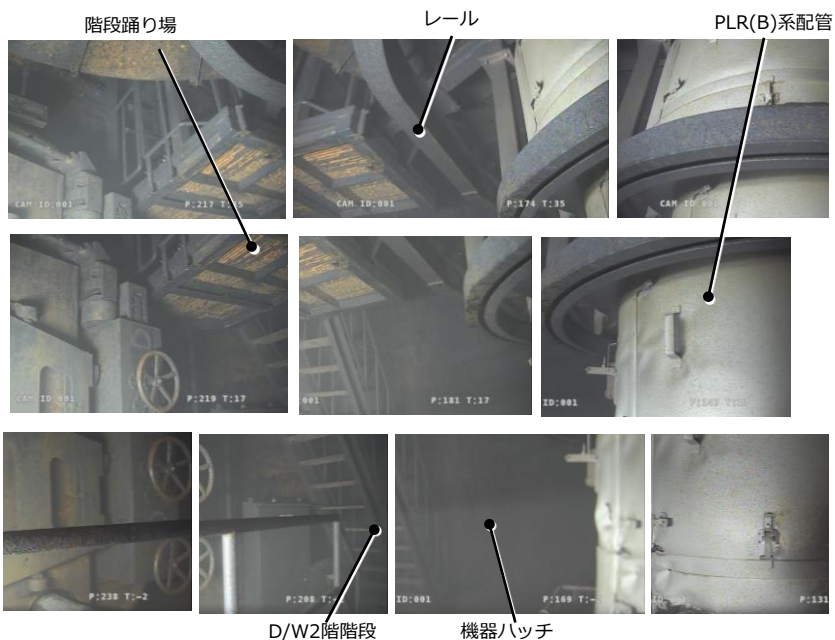
- 夏季の調査においては、PCV水位低下前後で著しい環境変化は確認されなかった
- 今回の結果だけを見ると、今後のPCV内部調査で用いる装置の設計やM/U・トレーニングの環境設定に影響はないと考える
- 詳細な考察については、冬季の調査結果を含めて検討していく予定
- 冬季の調査は、2月実施に向けて計画中

今後の調査スケジュール

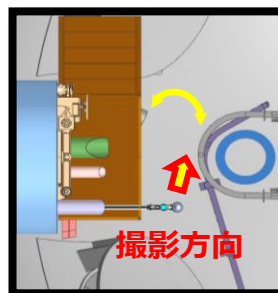
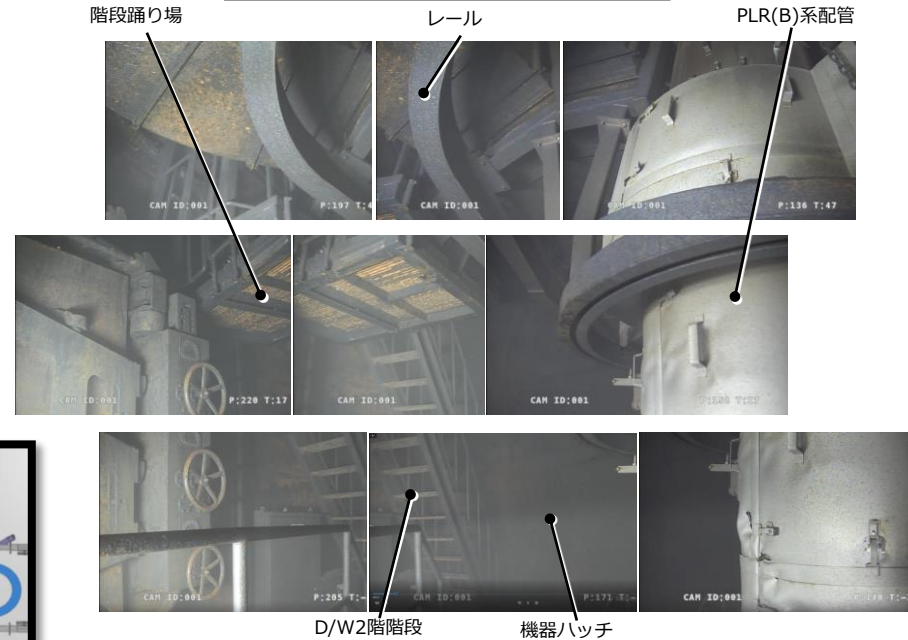
	2024年度									
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
装置製作	■			冬季まで一時中断					時期調整	
M/U・訓練		■		冬季まで一時中断			■			
現場作業		■ 準備作業	■ 調査	■ 片付け	冬季まで一時中断			■ 準備作業	■ 調査	■ 片付け

(参考) 調査時のパラメータ

2024年9月30日10時 (昼調査)



2024年10月3日1時 (夜調査)

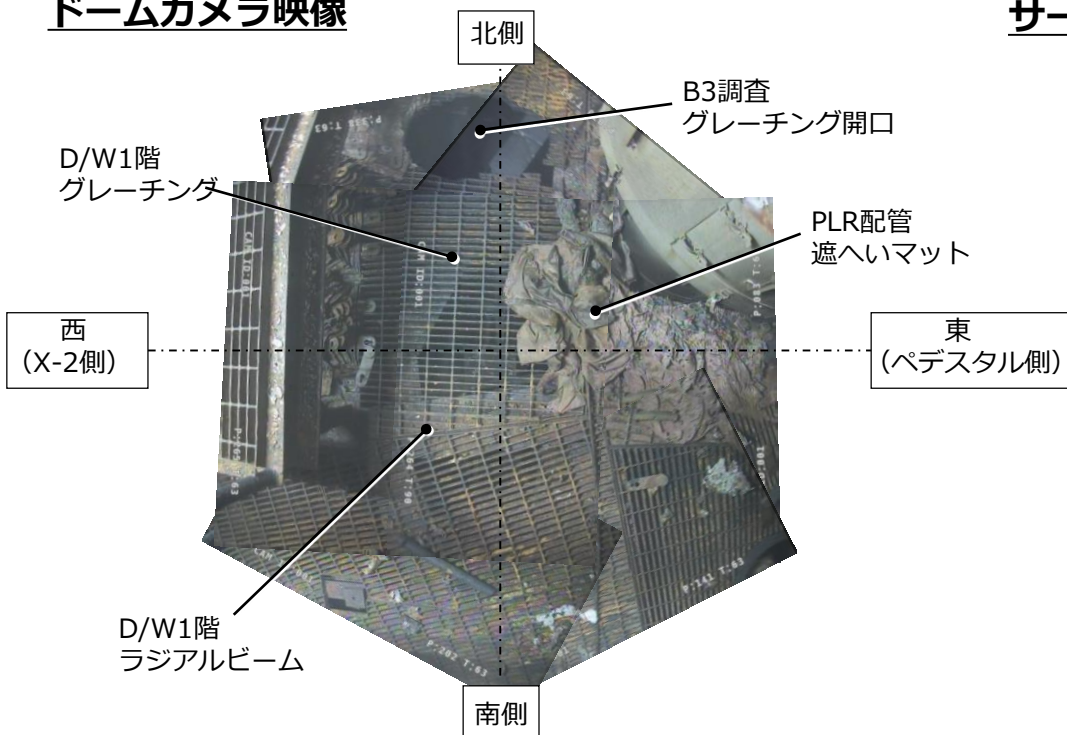


調査時の各種データ

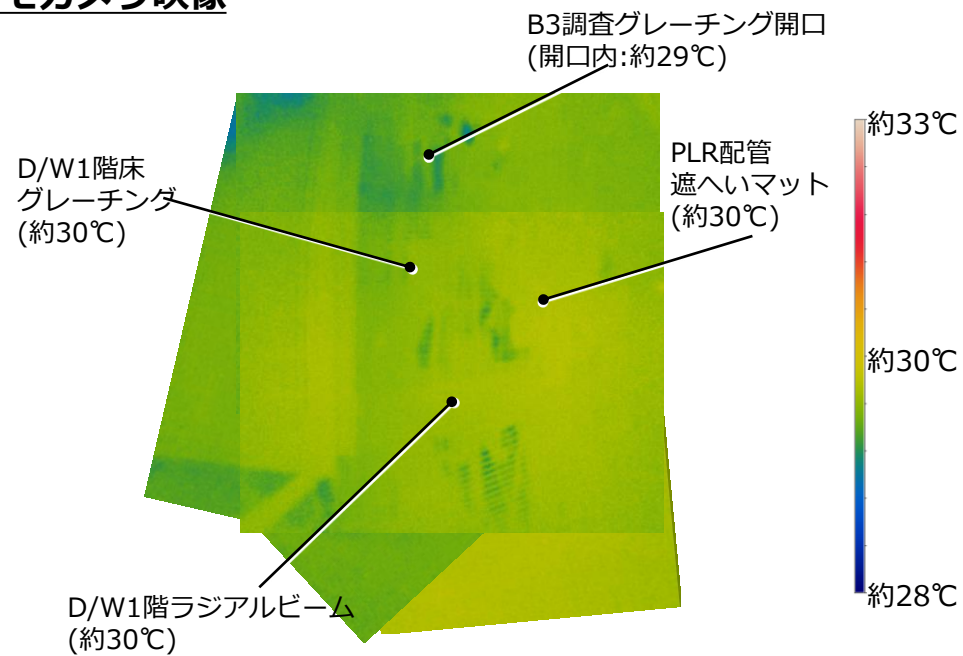
日時	項目・計測器	X-2ペネ周辺 (エアロック室) * 仮設		PCV内 * 仮設		PCV温度 (TE-1625T5)		窒素封入		原子炉注水		PCVガス管理システム		PCV圧力	(参考) 浪江地点 外気温
		温度 [°C]	湿度 [%]	温度 [°C]	湿度 [%]	温度 [°C]	温度 [°C]	温度 [°C]	流量 [Nm3/h]	温度 [°C]	流量 [m3/h]	排気温度 [°C]	流量 [m3/h]	[kPa (gage)]	[°C]
9月30日10時(昼)		24.4	69	29.5	98	30.0	20.9	31.2	25.6	1.4	24.5	19.7	0.1	22.8	
10月3日1時(夜)		24.0	80	28.8	99	30.1	21.1	32.3	25.6	1.4	24.6	19.6	0.0	20.5	

- 堆積物が存在するD/W地下階方向についても、サーモカメラで温度分布を確認
- グレーチング越しではあるが、特異な温度は確認されず、他構造物と同じように30℃程度であった

ドームカメラ映像



サーモカメラ映像



- 本調査では、PCV内の靄によるカメラの曇りを防ぐために、**ラバーヒータを用いた曇り止め**を実施
- ドームカメラに取り付けたラバーヒータにより、**調査中、継続的にドームカメラ本体を加熱**することで、水を含む空気が冷却されることによる結露の発生を防止(約40℃程度の温度)
- 本対策により、調査中ドームカメラの曇りは発生しなかったが、調査最終日にPCV内において、**パン・チルト等の操作系が使用できない状態**となった(映像系は問題なし)
- 必要な情報は全て取得済みであったことから、調査装置のアンインストールを実施
- 後日、PCV外で動作確認を実施した結果、**ドームカメラの温度が40度付近まで加熱されると同事象が発生**することが判明(35度以下であれば正常に動作する)
- 温度を下げることで再度使用できることが確認されていることから、**ヒータの設定温度の見直しや、ヒータを停止し動作復帰を促す手順の追加などの対策を検討中**
- **なお、M/U・トレーニングにおいても、40℃程度の温度で連続使用しており、耐放射線性試験の結果から約410Gyまで異常が無いことを確認(ドームカメラの最大使用温度：50℃、当該カメラの積算線量：約30Gy)**

